

21世紀東アジア国際関係の構造：“中、日、韓三国の三脚鼎立論”

北京大学 宋成有

内容要約

21世紀に入った東アジアの国際情勢は喜びもある憂いもあることと言える。一方、平和発展の基本的な構造は根本的な動揺が発生しなくて、各国の間の経済協力は発展して、「ASEAN10+3」体制はいつそうしっかりして、東北アジア地域の国際経済における地位は引き続き着実に昇格して、国際文化交流は活発にして、人員が行き来するのは頻繁だ；一方、朝鮮半島の核危機の問題をめぐって国際関係は新しい変動が現れて、大国の間の国際協力は試練に直面して、各国の間の相互理解と信頼は比較的にな弱くなって、国際経済において互いの競争は強化して、国際文化交流に解決しなくてはならない新しい問題が現われてきた。

このような情況で、中、日、韓の三国がどのように誠意を持って長い目で具体的な論争問題に対応して、共通の戦略利益を求めて、良性の“三脚鼎立”の構造を作り上げて、地区安定の軸心を形成して、平和な発展の大局を支えるかは、今の国際情勢において三国に対して直面すべき新しい問題だ。平等互惠で、互いに信頼する上で作り上げられた関係は、地域の平和に有利であって、地域の経済を発展してそして東アジアの経済地域化の過程を推進して、文化交流を促進して、全体から東北アジア地区を含んだ東アジアの国際社会での地位を昇格して、人類の進歩のために新しい貢献をする。

自己紹介

1945年遼寧省大連市の生まれ

1964年9月 1969年7月 北京大学歴史学部世界史専攻

1969年7月から北京大学歴史学部教師

1990年8月から北京大学歴史学部助教授

1994年8月から北京大学歴史学部教授現在に至る

1991年1月から1998年9月まで同学部副部長

1993年6月から現在まで北京大学北東アジア研究所所長

2001年6月から現在まで中国日本史学会常務副会長

2001年から現在まで中国朝鮮歴史学会副会長

主な業績

著者あるいは編著者として本を十数冊出版しました。例えば、

『新編日本近代史』（著者、北京大学出版社、北京、2006年）

『戦後日本外交史』（共著、世界知識出版社、北京、1995年）

『中韓関係史』（現代巻）（共著、社会科学文献出版社、北京、1997年）

『日本十首相伝』（編著、東方出版社、北京、2003年）、

『中韓関係史』（現代巻）（共著、社会科学文献出版社、北京、1997年）

『**北京大学と韓国の三・一運動**』(編著、香港社会科学出版社、北京、2003年)、
『**東北アジアの地域意識と平和の発展**』(編者、四川大学出版社、成都、2001年)、
『**韓国学論文集**』 第12集(編者、北京大学出版社、北京、2004年)、
『**韓国学論文集**』 第13集(編者、遼寧民族出版社、瀋陽、2005年)、
『**韓国学論文集**』 第14集(編者、遼寧民族出版社、瀋陽、2006年)、

尚、下記の論文を含んで、90篇あまり発表しました。

『**未来に向かう中日関係の構築に関する考え**』(『東アジア』(日本)、2005年11月)、
『**20世紀90年代における北東アジア国々の海開発圏構想に関する検討**』(『第11回中華経済協力関連部門国際シンポジウム資料集 CSCE XI：東アジア地域の経済整合』、日本東アジア経済論壇、日本北九州市立大学、2005年12月)、

『**戦後日韓経済開発のプロセスとオリンピック現象**』(『韓国学論文集』第14集、遼寧民族出版社、瀋陽、2006年)、

『**外交関係を再建する以来中日関係の発展軌跡に関する評論**』(『中国党政幹部論壇』、北京、2002年第8期)、

訳書を一冊出版しました。

『**二十一世紀への人間と哲学：新しい人間像を求めて**』(池田大作、J.デルボラフ共著)
(共訳、北京大学出版社、北京、1992年)。